

開催地名	京都府八幡市
開催日時	令和6年2月10日（土） 13：30 ～ 15：00
開催場所	八幡市文化センター 小ホール
語り部	大須 武則 （宮城県石巻市）
参加者	八幡市、市内自主防災組織、八幡市民、関係機関等 130 名
開催経緯	本市では、市民の防災意識の向上を図るため、平成 26 年度以降、年 1 回防災講演会を開催している。今年度は、実際に災害を体験された語り部から当時の体験談や教訓の話をテーマにご講演いただき、自主防災組織や個人の防災意識の向上につなげたいと考えた。
内容	・石巻市について 石巻市は 2000 年以降だけでも宮城県連続地震、東日本大震災や台風 19 号の大きな災害に見舞われた。東日本大震災では約 3 千 700 人の犠牲者を出し、住宅被害は 7 万 4 千戸のうち全半倒壊含め 5 万 7 千戸に及んだ。約 259 カ所もの避難所を開設し、最大 5 万 758 人が避難した。ライフラインのうち電気は 1 カ月半で約 9 割が復旧した。 （１）東日本大震災の体験と教訓 新聞社に勤めていた私は激しい揺れに驚き、机の下に隠れようとしたが、机の下は狭く頭だけしか入らなかった。地震に備えたオフィス環境の見直しが必要だと痛感した。1 階にあった自家発電機は津波で使用不能になった。津波を含めた水害への備えとして、重要なものは 2 階以上に置くよう考えてほしい。 翌日には、町内会役員が、住民を社屋に避難させてほしいと要請してきた。大災害でありすぐに了承した。ただし水も食料もなく、自分たちで調達してもらった。大災害に備え、自治会と民間企業の連携に取り組んでおくことも重要だ。 災害は、頭でわかっているにもかかわらず実際に起きたときは正しい行動は難しい。災害を自分事として備えてほしい。 （２）自治会、市民の役割と課題 市民・自治会に期待される役割として、災害前は防災意識の向上と知識・スキルの習得、自宅の耐震診断・補強などが挙げられる。災害発生時は、率先避難や要支援者への対応、被災現場からの救助、避難所の開設運営等がある。復旧期はまちづくりへの意見、災害公害住宅入居者との関わりなどが課題となってくる。 私たちの町内会の地区は津波で大被害となり、町内会が消滅した。5 年ほど前に復活し、私も役員として活動している。役員に防災士が 4 人いて、津波避難訓練やハザード

マップ勉強会などを行い、災害公営住宅との交流もしている。

石巻市の多くの自治会を見てみると、さまざまな課題が浮かび上がった。その対策としては、自治会での防災勉強会や訓練、防災アプリの活用、防災士の育成などがあげられる。しかし今、全国的に自治会役員のなり手が不足していることが最大の課題だ。

(3) 最後に

防災力とは、イメージする力・つながる力・諦めない力、と言える。災害が発生したときにどんな被害あるのかをイメージすること、それによって自分の身は自分で守り、その上で隣近所が助け合い、生きることを諦めないことである。

私は新聞記者だった。震災を伝え続けることが支援への恩返しだと思い活動している。



開催地より

ご自身が東日本大震災に遭われた経験から有事の際に発生する様々な問題についての教訓をテーマに大変貴重なお話をいただいた。当時の悲惨な被害状況やその教訓などを風化させることなく伝承していくことは、災害が激甚化する今、とても重要なことであり、参加者の防災意識の向上につながった。